

# あつと インタビュー

藤原 健  
部長  
社会部

見知らぬ土地で病気になったときの不安。ましてや、そこがことばの通じない外国であった場合は――横山雅子さん(分)は、庵原典子さん(95)と共にAMDA(アジア医師連絡協議会)国際医療情報センター関西の事務局を預かり、日本で暮らす外国人に電話で医療情報を提供している。アジア・アフリカのホット・スポットで緊急医療援助を続けるAMDAにあって一見、地味な国内活動。だが、3年半の活動で、日本の医療が「国際化」に向け課題を多く抱えている実態も見えてきた。

△関西在住の外国人といつて「ター東京」でもほぼ同じです。も、例えば大阪府内で外国人登録アシアの人たちが少ないのは、録者は約21万人(昨年暮れ現在)ある程度まとまった集団で、集団内部での相談がしやすい(在)。100カ国の国籍を持つ人たちが暮らす

## ◆60カ国の人から

こので相談を受ける外国人の割合は?

相談内容は?

横山 開設以後、60を超える園の人たちから相談を受けました。多いのは、ペルー、ブラジルなど南米が全体の約半数。最病院を紹介して欲しい、という近頃増えてきたアジアの人からは、少ないのが実情です。この府と府医師会がつくっている外国人向けの医療情報冊子「メテ

イカル・パスポート」などに記載されている病院に照会し、協力を得られる病院を「協力病院」としてリストアップ。その中から、内容に応じて紹介するシステムをとっています。

## ◆多くの課題が

相談を通じて分かったこ

次々に、制度の問題。外国人登録。横山 最も多いことばの問題は、単に話を通じないということ以外に、医師が医療内容を十分に説明しているか、患者側がそれを納得できるようにする工夫が行われているか、という相互のコミュニケーションに対する不安が背景だと思えます。

横山 地域に住む人であれば、保険加入資格を得ることができるのに、そのことを知らな分には、医師が医療内容を十分に説明しているか、患者側がそれを納得できるようにする工夫が行われているか、という相互のコミュニケーションに対する不安が背景だと思えます。

横山 地域に住む人であれば、保険加入資格を得ることができるのに、そのことを知らな分には、医師が医療内容を十分に説明しているか、患者側がそれを納得できるようにする工夫が行われているか、という相互のコミュニケーションに対する不安が背景だと思えます。

横山 「外国人」といってもひとくくりにはできません。英語を話す人ばかりではないし、来日の事情、背負った文化も違います。最近になって増え続けている人たちへの対応の一つとして、私たちの活動があるのだと思っています。

# 「医」に国籍の垣根は不要

## 在日外国人の心身支え

AMDA国際医療情報  
センター関西事務局

横山 雅子さん



1959年、堺市生まれ。神戸大理学部卒。カナダ・ハリファクスにあるセント・メリーズ大で国際開発を専攻。「センター関西」(06・636・2333)の電話相談は英語、スペイン語＝月一金曜日9～17時▷ポルトガル語＝火曜日13～16時(関係する日本人からの相談もできる)。

私は医師ではありませんが、こうした日本の医療状況を踏まえてできることは多いと思います。例えば、電話相談だけでなく、「外国語による両親学級」を企画して今、展開中です。医師、保健婦、助産婦を講師にしてスペイン、ポルトガル、中国、タガログのことばで妊娠、出産、育児について正しく役に立つ情報を外国人に提供するのが目的です。また、近く16カ国語の「歯科用診察補助表」も出す予定。外国人のための医療を通して、日本の医療が

AMDA 1979年、医師、医学士計3人がカンボジア難民救済にタイに駆けつけたのがきっかけで84年設立。本部・岡山市。世ははじめボランティアな会員は国内1500人、海外3000人。

よの多面的な取り組みができるよう頑張りたい。